

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申しあげます（2025年2月21日）

第3版 第3刷（2025年2月1日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758113700_corrections.pdfをご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第11章					
173	図1			※1を参照	25/02/21
175	表1			※2を参照	25/02/21
第18章					
267	表7			※3を参照	25/01/24
268	表8			※4を参照	25/01/24
文献一覧					
309	第11章 3)	「食物アレルギー診療の手引き <u>2020</u> 」 （「食物アレルギーの診療の手引き <u>2020</u> 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2020/	「食物アレルギー診療の手引き <u>2023</u> 」 （「食物アレルギーの診療の手引き <u>2023</u> 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2023/	情報更新	25/02/21
312	第18章 5)	「食物アレルギー診療の手引き <u>2020</u> 」 （「食物アレルギーの診療の手引き <u>2020</u> 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2020/	「食物アレルギー診療の手引き <u>2023</u> 」 （「食物アレルギーの診療の手引き <u>2023</u> 」検討委員会） https://www.foodallergy.jp/care-guide2023/	情報更新	25/01/24

図表

※1 赤枠ならびに赤下線部の表記を変更

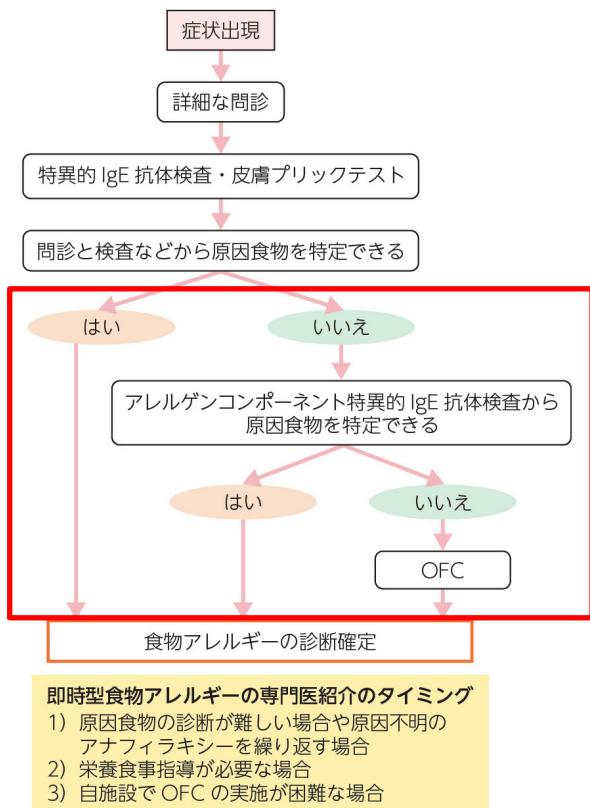


図1 即時型症状のフローチャート

「食物アレルギー診療の手引き 2023」（「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会³⁾より引用

※2 表下のキャプションについて、赤下線部の表記を変更

「食物アレルギーの診療の手引き 2023」（「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会³⁾、「厚生労働科学研究班による食物アレルギーの栄養食事指導の手引き 2022」⁴⁾より著者作成、引用；詳細は文献3を参照のこと

※3 赤下線部の表記を変更

表7 IgE 依存性食物アレルギーの臨床型分類

臨床型	発症年齢	頻度の高い食物	耐性獲得（寛解）	アナフィラキシーショックの可能性	食物アレルギーの機序
食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎	乳児期	鶏卵、牛乳、小麦など	多くは寛解	(+)	主に IgE 依存性
即時型症状（蕁麻疹、アナフィラキシーなど）	乳児期～成人期	乳児～幼児： 鶏卵、牛乳、小麦、ピーナッツ、木の実類、魚卵など 学童～成人： 甲殻類、魚類、小麦、果物類、木の実類など	鶏卵、牛乳、小麦は寛解しやすい その他は寛解しにくい	(++)	IgE 依存性
食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）	学童期～成人期	小麦、エビ、果物など	寛解しにくい	(+++)	IgE 依存性
口腔アレルギー症候群（OAS）	幼児期～成人期	果物・野菜・大豆など	寛解しにくい	(±)	IgE 依存性

「食物アレルギー診療の手引き 2023」（「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会⁵⁾より引用

※4 耐性乳酸菌の行を削除ならびに赤下線部の表記を変更

表8 投与禁忌の医療用医薬品

含有成分		商品名	薬効分類
鶏卵	リゾチーム塩酸塩	ムコゾーム点眼液	消炎酵素点眼剤
牛乳	タンニン酸アルブミン	タンニン酸アルブミン	止しや剤, 整腸剤
牛乳	カゼイン	アミノレパン EN配合散, イノラス配合経腸用液, エネーボ配合経腸用液, エンシュア・H, エンシュア・リキッド, ラコール NF配合経腸用半固体剤, ラコール NF配合経腸用液	蛋白アミノ酸製剤
		ミルマグ錠	緩下・制酸剤
ゼラチン	ゼラチン	エスクレ坐剤	催眠・鎮静・抗けいれん剤

「食物アレルギー診療の手引き 2023」（「食物アレルギーの診療の手引き 2023」検討委員会）⁵⁾をもとに作成